

関門高等洋裁学院と赤岸通り

今から40年前（昭和56年3月15日）貴船連合町民館の落成式が50名からの出席を得て挙行された。その場所は、貴船町赤岸通りの小路を入った直ぐの所で、50m西には豊道と田中川に接しバスや車や人の往来が多い。

貴船連合町民館が建つ前は、昭和23年1月よりこの地で、佐村よね（日本初の洋裁学校を開校・日本の服装界の先覚者）が多くの子女に洋裁は勿論のこと、制帽技術・簿記・英語までも教えていた。開校は、大正12年下関市阿弥陀寺町春帆楼の下である。その後、戦火で焼かれ昭和23年1月貴船町で再校した。卒業生は3千名とも4千名とも言われており、卒業生は各地で洋裁学校や洋装店を開設して今日に至っている。

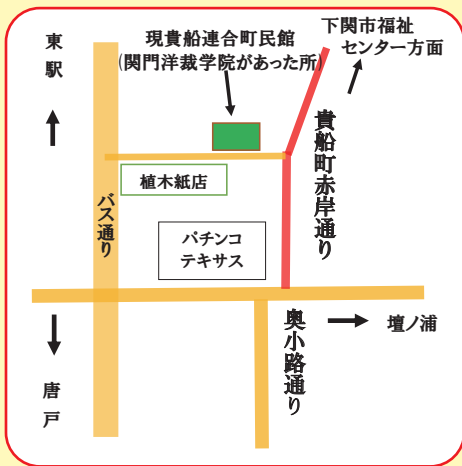
また、佐村よねは「日本最初の女流飛行家」として大正2年の東京日日新聞で報じられている。実は、佐村よねは明治39年16歳で服装研究のため渡米、その後飛行機に興味を持ちだし、22歳でロスアンゼルスロサンゼルスの飛行学校に入学している。この時、のちの関門高等洋裁学院主の佐村福槌ふくづちとの出会いがあった。

佐村女史を知る者は異口同音に、異彩・端麗な美人・理性的な判断力と突破力に圧倒された印象を熱く語る。今は、当時の写真・書物や卒業生・関係者からしかその様子は見聞できない。夫妻の「航空界、洋裁界での功労」を讃え、門下生や有志が記念碑（高さ4m40cm）を昭和28年に建立した。下関市長府町功山寺正面山門前に今でも当時の活躍ぶりを示している。

佐村福槌は、昭和54年100歳で・佐村よねは、昭和55年90歳で病没。墓地は功山寺仏殿左側にある。

北浦街道のかつて栄えた赤岸通り沿いにこんな歴史が刻まれていた跡地に、現在、貴船連合町民館が存在するのも何かの因縁かと思ふ。

（山縣邦光記）



昭和30年頃、同じ町内の方が撮影の学院正面



大正時代後期の卒業記念写真 一学生は常に300名以上一



関門高等洋裁学院の跡地の「貴船連合町民館」一令和3年3月現在一



航空界洋装界功労者佐村夫妻の碑 一昭和28年4月12日一